

日工販ニュースVol.18 No.2



もくじ

巻頭言「“環境時代”期待とちょっとした憂うつ」	日工販理事 佐藤 悦郎	2
賀詞交歓会		4
甘口辛口	(株)山 善 瀧谷 吉行	9
トピックス「わが国工作機械産業の需給実績と見通し」		10
話題の技術「OSP-P200 アンチクラッシュシステム」	オークマ(株)	15
リレー随筆 Part 2 「今の私・過去の私」	(株)牧野フライス製作所 藤原 邦祥	18
私の読書評「部下を動かす人事戦略」	協同リース(株) 岡庭 守司	19
議事録「理事会」インターネット」		20
SE教育「合格者」		22
工作機械と私「成功話・苦労話・失敗談等」	(株)エムエムケー 森本 直樹	23
統計資料「FA流通動態調査1・2」工作機械業種別受注額」		24
消息・行事		27
会員会社		28

「環境時代」期待とちょっとした憂うつ



日工販理事

佐藤悦郎

(ユアサ商事株 常務取締役)

あれは1999年の幕張での東京モーターショーでした。日本、欧米の完成車と一緒に、デンソー、アイシン精機をはじめ今話題のデルファイ社等、内外の部品メーカーが大挙出展しており、興味を持って見学に行った時の事です。

完成車では、ちょうどベンツ、ボルボ、フィアットなど欧州車が強い時で、米国車は大分かすんでいましたし、日本車も見た感じでは幾分劣っているかなと感じながら見学をしていましたが、未来車のブースに来た時、当時では奇抜な方法でしたが、裸になった電気自動車の模型が大きく展示されているのが目に留まりました。

そこには、エンジンもミッションも、いわゆるメカ系の駆動部が一つも無い、あるのはメインモーター、バッテリーとハンドルと足まわりのガランとした車でした。しばらくその説明書きを読んだり、又車を見たりしているうちに、だんだん憂うつな気持ちになって来た事を覚えています。

年が明けて、2000年、20世紀最後の正月のテレビ番組では、石油の枯渇を受けての次の自動車について、ハイブリット化、天然ガスの使用、燃料電池車、電気自動車と、その特長と技術的課題、コスト、実用性、普及時期等の議論が



さかんにされていた事は皆様のご記憶にも新しいものと思います。

「環境、省エネ時代」そのものは、大変素晴らしい事です。公害問題時代から脱却して(お隣の中国ではこれから始まるのかもしれませんが)地球全体の環境が随分良くなり、各企業も「環境憲章」を定め、又その企業姿勢がその企業価値を高める時代となり、「環境にやさしい、地球にやさしい」といった言葉が生まれ、それを冠に付けた商品が売れていく時代になって来ました。「環境、省エネ」に対する多様なニーズと、それを実現するさまざまな技術が開発され、私達も新しい、大きなビジネスチャンスを得ています。その意味では「環境時代」に向い様々な角度から大いに期待が持てるものと言えます。

さて私の「ちょっとした憂うつ」と申しますのは、ガソリンエンジン、ディーゼルエンジンが無くなってしまった時(先述しました通り、ガランとした電気自動車等の時代になった時)に、それを加工している工作機械の需要はどうなってしまうのだろう。大きく減るのでは。という事です。工作機械業界は現在大変活況で、今年はもちろんの事、来年も好調を持続するのではと言われておりますが、その原動力は自動車業界の設備投資であり、工作機械需要の50~60%は自動車に何らかの関係があると言われておりますが、いずれは来る燃料電池、電気自動車の時代にはどうなるのか。これは早くとも30年以上先の事でしょうし、業界も時代にあわせた発展を続けるでしょうから何も私が憂うつな気分にならなくても良いのですが、長らく仕事として工作機械業界にたずさわって来た私としては、気になる事ではあります。

平成18年日工販賀詞交歓会開催



日工販の平成18年新年賀詞交歓会が例年通り八重洲富士屋ホテル「櫻の間」において1月11日(水)12時30分より1時間半にわたり盛大に催されました。

当日は快晴と天候に恵まれ、関係官庁、諸団体、報道関係から多数の来賓のご出席をいただき、会員を含め好景気も反映して240名と大盛況でした。

会は荘司専務理事の司会で始まり、石川会長の新年の挨拶に引き続き(社)日本工作機械工業会副会長の牧野二郎氏より来賓のご挨拶を賜りました。続いて昨年総会以降入会されました新会員の協同リース㈱が紹介された後、日本工作機械輸入協会会長の前野通明様のご発声により一同乾杯をし、賀詞交歓は繰り広げられました。

歓談のなか、お忙しいにも拘わらず駆けつけていただきました経済産業省製造産業局産業機械課長の高橋泰三氏より年頭のご挨拶を賜りました。

宴たけなわの中、定刻になり富田副会長による三本締めで中締めがあり散会となりました。

ご多忙中にも拘わらず出席を賜りました経済産業省の高橋課長をはじめご来賓の方々、会員各位にあらためてお礼申し上げるとともに本年のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。

(事務局)

石川会長新年のご挨拶：

皆様新年明けましておめでとうございます。

日本各地で大雪が降りまして厳しい寒さが続く毎日でございますが、皆様方にはよいお正月を迎えたことと存じます。

本日は日本工作機械販売協会の賀詞交歓会に多数お集まりいただきまして本当にありがとうございます。

去年は日本経済の回復が強く印象付けられました。色々な改革が進み実を出しはじめ人々に自信と活気がよみがえるような気がしております。工作機械業界も大変

恵まれたよい年を享受できたと思います。暦年の年間受注総額は1兆3,500億円、その内我々が深く関係しております内需が7,000億円あまりになった模様であります。この勢いは引続き、自動車産業をはじめ建設機械、一般産業機械業界等にも生産設備増強の計画もございますし、IT関連産業も上昇気流に乗るのも間違いないと思います。これは衆目の見方の一致するところでありますので今年も順調に工作機械業界は推移するものと見込まれます。今年の年間受注総額は内需で6,000億円強、外需で5,500億円程度、合計1兆1,500億円程度になるのではないかと予想しております。2002年10月から連続38ヵ月間にわたりプラスを記録しております月間の受注総額対前年同月比はいずれ何時かそう遠くない時期に横ばいからマイナスに転じる時がくるとと思いますが、今しばらくはその絶対額は高い水準で保たれると考えております。従いまして我々が今享受しております好調はまだまだ続くものと考えております。このような長い期間好調が維持されるということは工作機械業界にとっても久しく経験したことはなかったのではないのでしょうか。

今幾らかの余裕のあるこの時期、我々は商売の原点でありますところに思いをはせましてしっかり地に足を着け今の好調に奢ることなく丁寧に仕事を進めていきたいと思っております。機械を使う人が満足を得られるように、機械を作る人の思い入れを伝えられるように、使われる機械が十二分に生かされるように、全てに喜ばれるような販売を心掛けたいものがございます。そしてユーザーの方々、メーカーの方々、取引先全ての方に喜んでいただける存在になるよう目指したいと思っております。

昨年度日工販が実施致しました調査では日本国内の工作機械販売における日工販会員の占める割合は7割を超えておりました。大変大きな数字で身が引締まる思いが致します。我々工作機械業界に居られることを幸に思い感謝しながら業界社会の発展に貢献していかなばと強く思いを抱くところがございます。と同時に我々自身、会員各社自身が適正利潤をあげ経営の安定化を図り次ぎの世代の若い人達に魅力ある業界として残していくことが必要であると考えております。それに向けまして日工販も活発に活動していきたいと思っております。事務局を中心と致しまして皆様のご要望ご期待に沿えるよう、そして会員各社の発展に寄与できるよう努めてまいります所存でございます。どうか会員の皆様にも以前にも増し日工販との関わりを深くお持ちいただき積極的に活動に参加していただくようお願い申し上げます。そして頼れる信頼される日工販を築いていきたいと思っております。

最後になりましたが会員各社の益々のご隆盛とご発展、そして今日ここにお集まりいただきました皆様の益々のご健勝とご多幸を心より祈念致しまして私の新年のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



来賓ご挨拶：

経済産業省製造産業局 産業機械課長

高橋 泰三 様

皆様明けましておめでとうございます。

ご紹介いただきました経済産業省の高橋でございます。
す。

工作機械の関係は昨日日工会の中村会長が今年の受注は年間1兆2,000億円と予測し、上方修正ありうべしと非常に明るい話をしていただきました。もとより工作機械は日本の製造業の強みの源泉でございますので、その

メーカーさんとユーザーさんをつないでいただく販売の役割は非常に大きなものがございます。景気もよいということで皆さん今年もよい年になるであろうと思っておられることと存じますが、これが何年続くのが最近の話でして今年は大丈夫であろうが来年、再来年どこまで行くのであろうということ、皆さん実は心の中で思っているのではと察します。

一説によると日本経済60年周期説というのがありまして60年で前半の30年は上昇し、後半の30年は下降するという大きな波動があり今年上がるスタートの年であるという。要するに明治維新後の1885年から60年間、前半の30年間はガーンと上がって後半の30年間は戦争に負けるまでずっと下がって、1945年からずっと高度成長で30年間上がって1975年からオイルショック、バブルの崩壊ということで低迷が続いた。

最近株が上がっていますが1980年は8,000円、2002年は7,600円でこの約20年間はいってこいで上がらなかった。2006年から新しい成長軌道に入るといって30年成長するという人もいます。ただし、山高ければ谷深しということも皆さんも充分経験されたことだし、光あるところ影があるということでございます。

今年儲けないと何時儲ける年があるのかということもあるかも知れませんが、今年は儲けていただいた上で次の一歩を固めていただきたい。リスクはあります。米国経済、中国経済、為替。大手行は公的資金を前倒して返済して今年平常モードになると思われるので金融政策も平常モードになってくるかも知れませんが、そういうリスクを睨みながら次ぎの一手、その次の一手と先を睨んでいきますと、工作機械に関連する皆様方が繁栄し、強いては日本製造業、日本経済が発展するということになるかと思えます。来年の今頃、その次の年も皆様とこのように明るいお集まりでお会いできることを楽しみにしています。

この場を借りまして日頃産業経済行政にご協力いただいていることを感謝申し上げますとお集まりの皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。簡単ではございますがご挨拶にかえさせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。



来賓ご挨拶：

(社)日本工作機械工業会 副会長 牧野 二郎 様

皆さん明けましておめでとうございます。

本来ですと中村会長がここに出席しましてお話し申し上げるべきところですが、他事と重なり出席できません。代りに私からご挨拶申し上げたく存じます。昨日中村会長からメモをいただいてまいりましたので、その線にそってお話をさせていただきます。

工作機械工業会はこのところ順調な状況で受注が続いています。昨年は39ヵ月前年比プラス、20ヵ月連続の1,000億円台の受注となっています。実際のところ昨年後半ではそろそろ息切れがして、前年同月比で見ますと一昨年の終わり頃はかなり高い数字でしたので、そろそろよいではないかという人とここまで来たら何ヵ月でもいきたいという人と業界の中では分れていましたが、結果的には昨年12月の速報数字も前年比プラスとなりそうです。昨年暦年は1割増の1兆3,500億円を上回る数字になるであろうと昨日の日工会新年会で中村会長より話がありました。今後の見通しは石川会長から話がありましたように色々な環境、その他見通しから申しまして悪いことはない、工業界の中でも比較的強気の見通しを立てています。昨日の中村会長の発言について色々な方からご質問があり、どうも数字が合わない、全体的な話とこの見通しは前年が1兆3,500億円で、なんで今年は1兆2,000億円になるのかと言われました。この予測数字はどうやって作っているのかと申しますと、この数字は日工会の経済調査委員会で、経済予測はどうなるか等緻密な分析・計算をしてA案、B案、C案等仮説を立てて、最後に、会長の独断と偏見をもって結論付けています。今年は、たまたま中村会長がこの数字が好きで決定した次第です。前会長の西会長の時から下方修正することに非常に嫌な思いをし、その後上方修正を何回もやり、非常によい気分であった、という話を何度もしておられた。多分中村会長は本年度に2回ぐらい上方修正をしたいということでこの数字を選んだと私は想像しています。そんな1兆2,000億円ですので、よろしくお願いします。

日工会では、中村会長自ら先頭に立って指導していることですが、工作機械に携わる人材の活動に努めたい。この業界は重要な産業であって、これから若い優秀な技術者あるいは他の人々をこの業界の中に入れていきたいということで、色々な考えを取り入れ、また大学と教育界の知恵も取り入れて色々な活動につなげていきたい。

次に前回の日工販との会合で申し上げたと思いますが、日工会として税制の改正について、予てから要望を申し上げております。それはユーザーの皆様が設備投資をされその結果を出されたことに対して免税措置、利益を出したとことに税金面で色々な配慮を施していただく。特別なことをするというより国際標準に近づけて欲しいということが我々の希望であります。その内のエネ革税制の延長は実現されそうです。もうひとつ、長年懸案になっております減価償却の見直しということです。先進国に比べ日本の償却制度の中で工作機械の償却期間が非常に長い。それに最後の簿価がゼロにならないということです。これは先進的なユーザーにとっては非常に不利益であるということです。例えば中小企業の皆様でも非常にベンチャー的な活動に入れ大きな利益を得られていますが、最近の事業形態をみますと非常に大きな利益をあげてもその事業は10年間持つということはなく、非常に早い時期に次ぎのベン



チャービジネスを採すというようなことが迫られています。10年も経ってしまうとその事業は中国へ行ってしまふ訳です。その間、折角上げた利益を税金に取られてしまうと、次の新しい事業に投入していけないということです。ところが現実的には工作機械の償却期間は10年間ということで過去ずっときている。これを国際標準に直してほしいということが私共の希望です。これは経済産業省が相当力を入れて昨年あたりからやっています。確か前回の会合で産業機械課長からこの席でお話でしたが、昨日の日工会の新年会ではそのことにつき製造産業局長から極めて積極的に取り組んでおられるお話がありました。今年は是非これを実現していきたいということでもあります。

色々お話ししたいことがありますけれども、先ほど石川会長がお話されたように今年は大変忙しい年になると思います。正直申しましてお客の方も私共工作機械メーカーも兵站が本当に延びきっておりまして、例えば折角お客様にお納めした機械が今までのようにフル稼働に到っていないという説も大部あります。多分にちぐはぐなところが出ていますので見直しをしろとのユーザーの上層部の話もあると聞いています。今年はそういう意味でいろいろ気を付けながら進めていかなければいけないということが実情であると思います。先ほどの石川会長のお話の中で使われる側、作る側両方の立場をよく考えて両方の良いことを考えていくことが日工販の役目であるとの趣旨をお話されましたが、昨年も1年間我々日工会会員は日工販のお世話になったわけですが、今年はこのような状況下にありますので昨年以上に厳しくご指導ご鞭撻をいただきますよう最後をお願いしたいと存じます。

本年も宜しく申し上げます。どうもありがとうございました。

乾杯！

日本工作機械輸入協会 会長 近野 通明 様

皆さん明けましておめでとうございます。

今回は景気がよいと見えましてここにお集まりの皆様も非常に多く、また顔色も一段と輝かしく思えます。

先ほど日工会副会長の牧野様よりお話がありましたように今年の受注は1兆2,000億円とのこと。昨日日工会の賀詞交歓会にお招きいただきましたが、その時中村会長のお話ではできれば8月に上方修正を試みたいといっておられましたので、今年もおそらく昨年と同様1兆3,000億円ま



またはそれ以上を目指しておられると思います。私共も昨年はよい年でありまして切削加工機械は輸入通関実績で受注とは違いますが約600億円、鍛圧機械は約150億円、さらに一番大きいのはツールホルダーあるいは治具、周辺機器を合わせまして約1,000億円強の輸入をしまして前々年と比べましておよそ30%増となっています。今年も頑張っって同じような年にしたいと思います。

日本の経済も株式の方は年末より日経平均1万6,000円を確保しております今年も2万円を目指すといわれておりますので順風であるような気がします。皆さんと一所懸命頑張っってやりたいと思います。

それでは日本工作機械販売協会及び会員の皆様の益々のご隆盛とご出席の皆様のご健勝とご多幸を祈念致しまして乾杯致します。

乾杯！

甘回辛回



榎山 善
大阪営業本部
機械部 業務課
瀧谷 吉行

私事で恐縮ですが年明け早々にインフルエンザに感染してしまい10年ぶりに数日間寝込んでしまいました。何もすることがありませんのでテレビをつけっ放しで寝ておりますと、「大阪の道頓堀で真珠を養殖していましたが3年ぶりに引き上げます。」というアナウンサーの声が耳に入りました。あの汚れた道頓堀で真珠？一瞬A型ウィルスに聴力中枢がやられたと思いましたが、よく聴いておりますと三重県鳥羽で有名なアコヤ貝の真珠ではなくシロチョウ貝という名前の貝を3年前にテスト的に沈めていたのを引き上げるというニュースでした。シロチョウ貝というのは汚れた水の中でも生息して呼吸していますと汚水が浄化されるらしいです。大阪市民に一口5,000円で貝のオーナーになってもらい真珠を養殖しつつ道頓堀の水を浄化しようという試みのニュースでありました。(画面には形はあまり良くありませんがちゃんと真正正銘の真珠が数個映っていました。)阪神ファンの方でダイビングご希望の方はぜひシロチョウ貝のオーナーになってあげてください。

前置きが大変長くなりましたが、私は今回の投稿で工作機械と環境対策について少し述べさせていただこうと思います。

2002年6月に批准された京都議定書が昨年2月に発効し更に昨年11月にカナダ・モントリオールで第1回京都議定書締結国会議(MOP1)が開催され第1約束期間である2012年までの運用ルールに全て合意がなされ各国の取り組みが具体的にスタートしました。我が国日本は1990年比で6%の温室効果ガスの排出削減を約束しております。

当社におきましても環境マネジメントシステムを構築し2000年3月、大阪本社にてISO14001の認証を取得しました。さらに全社活動に広げ、2002年3月、国内全事業所へと認証範囲を拡大いたしました。私が所属している機械部におきましても決められたプログラムに沿って日々の電気使用量、ゴミ排出量等の記録を取り削減を実行しています。それらの削減を続けることが大きく纏まって種々のエネルギー、CO₂発生量の削減となり地球温暖化防止の為と信じております。

また視線を社外に転じますと日々の仕事の中で私たちの工作機械業界にとって最大の顧客である自動車産業においてもハイブリッドカーや燃料電池開発に見られるように環境問題に対して新しい素材の開発あるいは新工法、新技術等に日夜たゆまぬ努力がなされています。工作機械販売に携わる者としても当然環境対策を無視するわけにはいきません、環境に優しいあるいは省エネに繋がる設備をお客様の立場に立って常に考え提案していかなければなりません。わかりきっている事ですがニーズのある所に需要があるということです。世界に誇る我が国の種々の工作機械メーカーさんが開発し市場に投入している環境対策商品の販売を通じ大げさかも知れませんが地球温暖化防止にほんの少しでも貢献することが自分の責務であると感じた2006年の年初でありました。

わが国工作機械産業の需給実績と見通し

ニュースダイジェスト社主催の「2006年F A 業界新年賀詞交歓会」が、去る1月12日名古屋のホテルキャッスルプラザで開催され、冒頭同社取締役社長樋口一郎氏より500名余のFA業界諸氏へ、恒例の「わが国工作機械産業の需給実績と見通し」についての講演がありましたので、同社のご好意により当日配布されました資料を転載致します。

当日は同氏講演に引き続きブラザー工業㈱代表取締役社長平田誠一氏に2005年度NDマーケティング大賞の贈呈があり、同氏より「わが社の経営戦略」と題する受賞講演があり、「At your side」な企業文化に基づきお客様第一の経営を実践するための「ブラザー・バリュー・チェーン・マネジメント」を構築している旨述べられました。

小憩の後、恒例となりました「新春トップインタビュー」と銘打った公開インタビューが樋口社長の司会で、(社)日本工作機械工業会会長 中村健一氏と㈱ジェイテクト(JTEKT)取締役会長 山田隆哉氏との間で繰り広げられ、工作機械業界と自動車業界の展望が語られました。

日工会中村会長：

2005年の受注は年初見込みを大きく上回り1兆3,620億円と1990年に継ぐ史上2番目の高水準。昨年秋口より納期対応が整いつつある。

2006年は引き続き設備投資環境は良好で年間受注1兆2,000億円を見込む(内需6,500億円、外需5,500億円)。

2005年内需の産業別では一般産業が自動車を上回っているが、総体的には自動車産業への依存度は60%程度と見ている。

外需地域別比率は1990年にアジア/欧州/北米=2:3:5が2004年には4:3:3となり2005年には更にアジアの比率が高まっている。特に中国・韓国・台湾の東アジア向けが活況。

日本は1982年以来24年間世界一の工作機械生産国であり、世界への供給国としての地位を維持していく。

JTEKT山田会長：

2005年国内自動車販売台数は585万台で過去3年ほぼ同水準。輸出は2003年から毎年20万台伸びていて2004年は496万台。

国内生産は輸出が増えている分だけ年率20万台増加し2004年1,051万台。海外生産は2004年970万台で、2005年は国内生産を超えた模様。

自動車メーカー11社設備投資計画2005年度3.1兆円、2006年度2.9兆円、2007年度2.7兆円(野村證券金融研究所2005.11)。

2006年度はプロジェクトの端境期。ただし各社増産意欲は高く、部品メーカーにとって端境期は後にずれる。2007年度はユニットの新開発投資や、海外工場への投資が長いスパンで続くため、2006年度を超える可能性あり。

2004年世界人口63億人の15%に過ぎない先進国が世界の自動車保有台数8億台の70%を占めている。今後発展途上国をはじめとする先進国以外での拡大余地を考えると自動車産業は成熟産業ではなく成長産業といえる。

工作機械メーカーは海外を含め既存自動車メーカー及び部品メーカーへの売り込みが重要である。

わが国工作機械産業の需給実績と見通し

[2005年1月12日発表・暦年ベース]

ニュースダイジェスト社《月刊・生産財マーケティング》編集部

1. 受注〔日本工作機械工業会統計〕

(単位：百万円・前年比%)

	2002年	前年比	2003年	前年比	2004年	前年比	2005年	前年比	2006年	前年比
総金額	675,837	-14.3	851,101	+25.9	1,236,192	+45.2	1,350,000	+9.2	1,250,000	-7.4
内 需	350,322	-14.8	441,587	+26.1	672,839	+52.4	745,000	+10.7	670,000	-10.1
外 需	325,515	-13.8	409,514	+25.8	563,353	+37.6	605,000	+7.3	580,000	-4.1

昨05年の受注実績(一部推定)は、自動車業界をはじめとする幅広い製造業による旺盛な設備投資、中国を中心とするアジア地域の需要増などに促され、03年から3年連続で拡大基調を示した。その勢いは年央以降も衰えず、日工会の年初予測値も上方修正された。

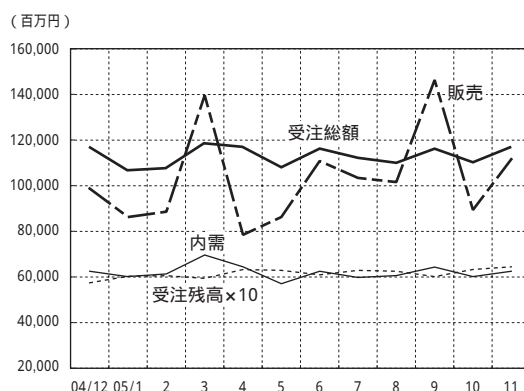
受注額は02年10月から05年11月まで38ヵ月連続で前年比プラス、単月ベースで1,000億円超の高レベルである。したがって05年は、過去最多だった90年実績(1兆4,121億円)にどれだけ迫るかが焦点になっている。

景気循環グラフをみると、00年代4四半期を起点(=100)とした今回のサイクルは、04年第4四半期以降、高原横這い状態を示している。自動車メーカーの設備投資は08年まで高水準で推移すると見込まれる。06年は、全体的に落ち込みがあったとしても、きわめて緩やかであろう。

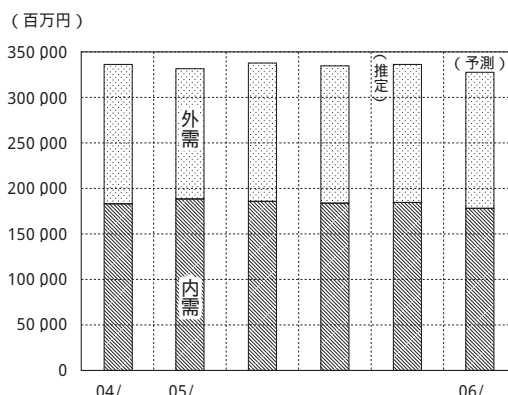
下欄に四半期ごとの受注予想額を示す(単位=百万円)。

	05.	06.	06.	06.	06.
受注総額	339,500	330,000	320,000	305,000	295,000
前年同期比	+0.5	-0.9	-5.8	-9.7	-13.1
内 需	187,000	180,000	175,000	165,000	155,000
外 需	152,500	150,000	145,000	140,000	140,000

工作機械受注実績



四半期別の内・外需推移



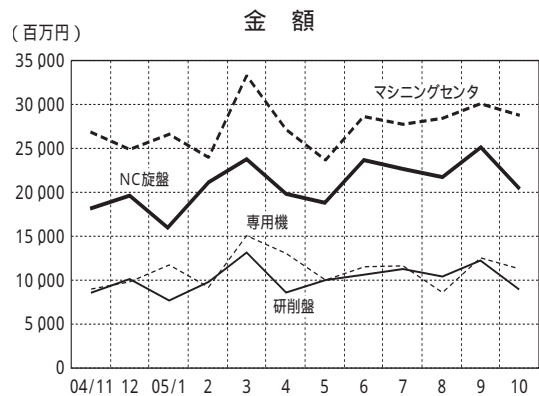
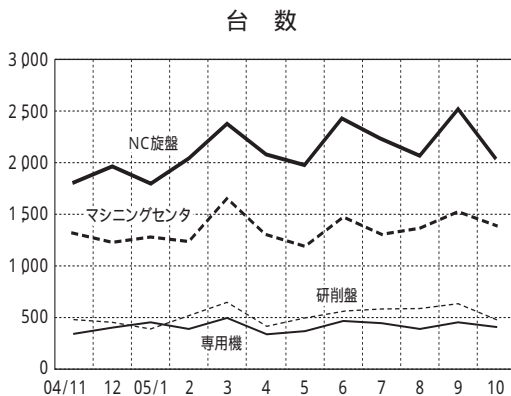
2. 生産〔経産省機械統計〕

(単位：百万円・台・トン・前年比%)

	2002年	前年比	2003年	前年比	2004年	前年比	2005年	前年比	2006年	前年比
総金額	585,098	-24.6	690,205	+18.0	878,082	+27.2	1,120,000	+27.6	1,150,000	+2.7
台数	55,807	-25.2	65,673	+17.7	79,500	+21.1	91,500	+15.1	96,000	+4.9
重量	227,217	-24.4	272,171	+19.8	361,935	+33.0	445,000	+23.0	455,000	+2.2
・単価	10.5	+1.0	10.5	±0	11.0	+4.8	12.2	+10.9	12.0	-1.6

通常、工作機械は注文を受けて生産が完了するまで、最短でも数ヵ月を要する。05年11月時点の受注残は、単月受注額の約6ヵ月分にもなる。したがって、理論的には現在の受注額が生産額に反映されるのは8～9ヵ月後とみられ、05年の旺盛な受注により、06年の生産は堅調に推移すると見込まれる。

業種別にみた06年の需要見通しは、自動車は一部大手の設備投資前倒による反動減などで前年実績よりやや減少が予想され、中小企業の設備投資もやや弱含み。一方で、電気・精密機械が調整期を脱し、中国などアジア市場の需要増大、DVD・HDDの生産拡大に伴い高水準の投資が見込まれる。加えて、石油関連、建設機械など重厚長大産業の設備投資増加も好材料と言える。



3. 輸出〔財務省貿易統計〕

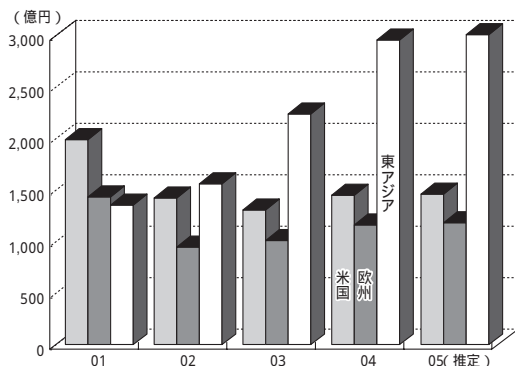
(単位：百万円・前年比%)

	2002年	前年比	2003年	前年比	2004年	前年比	2005年	前年比	2006年	前年比
総金額	484,668	-13.2	564,105	+16.4	683,066	+21.1	800,000	+17.1	775,000	-3.1
・対米国	138,646	-29.8	128,758	-7.1	143,067	+11.1	167,500	+17.1	162,000	-3.3
・対欧州	92,326	-34.2	98,754	+7.0	113,416	+14.8	132,000	+16.3	128,500	-2.7
・対東アジア	153,212	+15.3	220,637	+44.0	292,411	+32.5	343,000	+17.3	332,000	-3.2

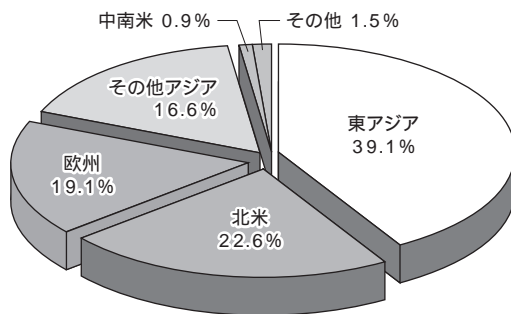
自動車、電機、精密機械など、わが国製造業全般で現地生産や同販売が広がり、世界レベルで需要地域の拡大が進んでいる。このため、工作機械の外需比率も上向く傾向にあるものの、欧米諸国の先行き不透明感などもあり、輸出全体では05年を頂点に06年はやや減速が見込まれる。

地域別では、アジアが中国・インドの経済成長や、タイをはじめとする自動車産業の投資が見込まれる。その反面、米国は自動車メーカーの不振や原油価格の高騰が懸念され、欧州も主要国の景気回復の遅れや、中東欧圏への生産移管に伴う地域空洞化などにより不透明感がみられる。

主な市場別輸出高の推移



2005年上半期市場構成比(総額2,585億円)



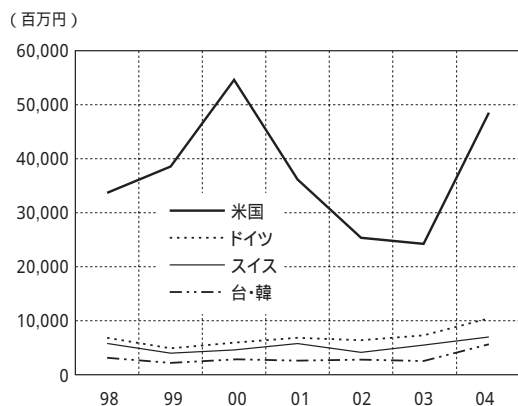
4. 輸 入〔財務省貿易統計〕

(単位：百万円・前年比%)

	2002年	前年比	2003年	前年比	2004年	前年比	2005年	前年比	2006年	前年比
総金額	50,904	-26.9	53,163	+4.4	88,245	+66.0	103,700	+17.5	101,000	-2.6
・米国	25,282	-29.3	24,275	-4.0	48,560	2倍	56,000	+15.3	52,500	-6.3
・欧州	13,522	-21.2	15,093	+11.6	19,784	+31.1	23,200	+17.3	22,500	-3.0

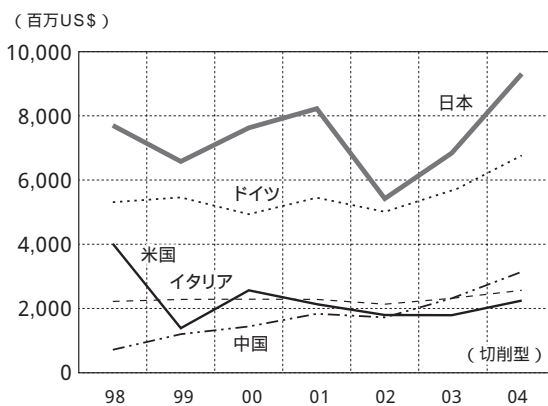
旺盛な国内需要を背景に、03年以降3年連続で増勢基調を辿ってきた輸入だが、06年は一服しそう。納期遅延が広がる中、ビジネス機会を生かすため、できるだけ早く生産設備を導入したいユーザーに輸入機は大きく貢献してきたが、需給バランスの安定に伴い本来の市場実態に戻るかっそうだ。輸入機で金額的に多いのは、特殊加工機、研削盤、歯車加工機など。地域別では、輸入全体の半分を占める米国が05年には00年に迫る高水準の推移が見込まれるが06年は微減に。アジアは好調な韓国・台湾勢に中国が加わり、06年も堅調に推移しそうだ。その一方で、欧州はドイツやスイス、イタリアの一部メーカーは底堅いが、全体的には弱含みである。

工作機械輸入の国別推移



主要国の工作機械生産推移

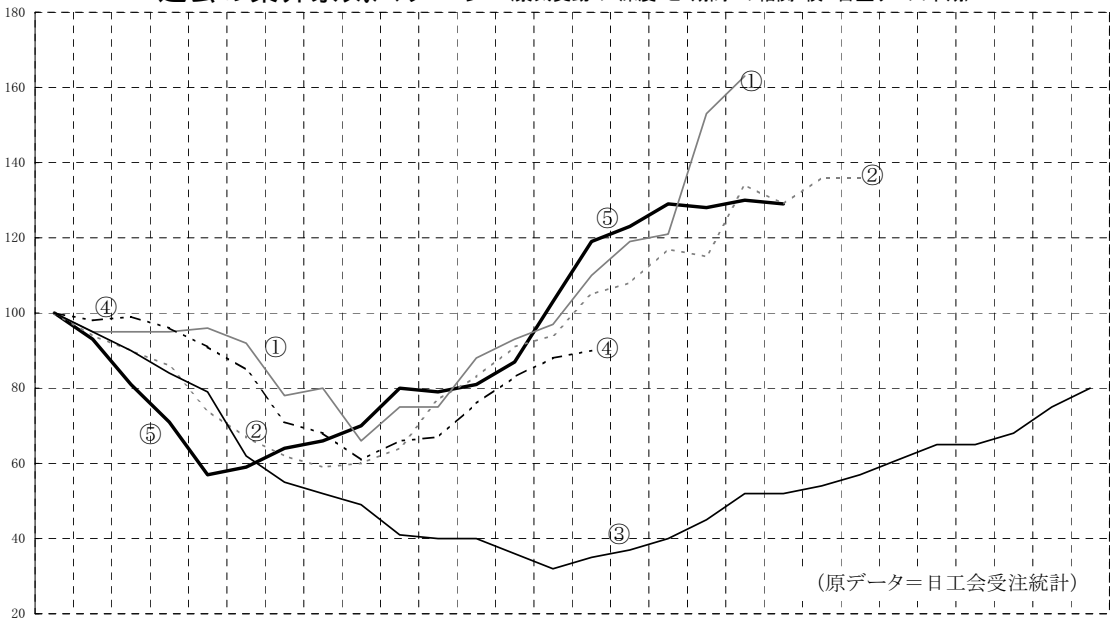
(米Gardner Publ.)



(百万円) **業界景気動向** (四半期別に見た工作機械の需給変動) ※日本工作機械工業会の受注統計から



(%) **過去の業界景気パターン** (景気変動の“深度”と“期間”の相関: 横1目盛り=四半期)



(原データ=日工会受注統計)

【グラフ説明】	頂点P	底点B	底点/頂点P	B期間	次頂点/底点	P期間
①第2次オイルショック不況	73年Ⅳ (163,470)	75年Ⅳ (108,280)	53.84	24ヵ月間	246.47	18ヵ月間『第2次オイル・ショック』
②円高不況	85年Ⅱ (266,873)	87年Ⅰ (157,690)	59.08	21ヵ月間	229.85	22ヵ月間『第2次円高ショック』
③構造不況	90年Ⅲ (362,446)	93年Ⅳ (114,914)	31.71	42ヵ月間	251.26	43ヵ月間『バブル経済崩壊』
④平成不況	97年Ⅱ (288,732)	99年Ⅱ (176,602)	61.16	23ヵ月間	147.56	16ヵ月間『金融システム破綻』
⑤IT・デフレ不況	00年Ⅳ (260,587)	01年Ⅳ (148,929)	56.79	16ヵ月間	?	? 『IT不況・構造改革』

分かりやすい話題の技術

No.85

OSP-P200 アンチクラッシュシステム

オークマ株式会社

1. はじめに

今日、高付加価値加工を実現するために複合加工機や5面加工機、5軸加工機などの導入が進んでいる。

これらの機械は、動作が複雑であるため、加工準備作業の際に、不測の衝突を起こす可能性が高く機械オペレータに慎重さが求められ、加工準備時間が長時間化する傾向にある。

アンチクラッシュシステムは、加工プログラムによる自動運転や、加工準備作業の中でしばしば用いる手動操作において、機械の実動作に先行して、NC装置自身が工具やワーク、治具、機械構造物との干渉チェックを自動的にを行い、衝突前に機械を安全に自動停止させる衝突防止を実現し、複雑な動作の機械を「誰でも安心して使える工作機械」に変えるインテリジェントな機能である。(資料1)

資料1 衝突防止機能の概要

— 誰でも安心して使える工作機械 —

「段取り時間」「試切削時間」「機械停止時間」を削減して、機械稼働率を向上させる。

■特長

- ※安心して加工に集中できる機械:「試切削時間」を短縮
- ※衝突による故障停止/修理時間がない機械:「機械停止時間」を削減

■機能

- ※干渉回避機能:手動運転
段取り時や、初品加工で頻業に行う手動操作において、動作方向に対してリアルタイムに先行チェックし、干渉を検知した方向には機械動作を一時停止させます。干渉が無くなると機械動作を再開します。
- ※干渉ブロック停止機能:自動運転
原点オフセット、工具オフセットを加味した座標で、NC動作をリアルタイムで先行チェックし、オフセットミスによる衝突が発生するブロックの直前で機械動作を停止させます。
- ※高速干渉チェック機能:機械運転前(マシンロック)
機械運転前にNCプログラム中に衝突するブロックがあるかをチェックすることで、プログラムミスを事前に判定できます。チェック結果は干渉リストとして表示されます。

■効果



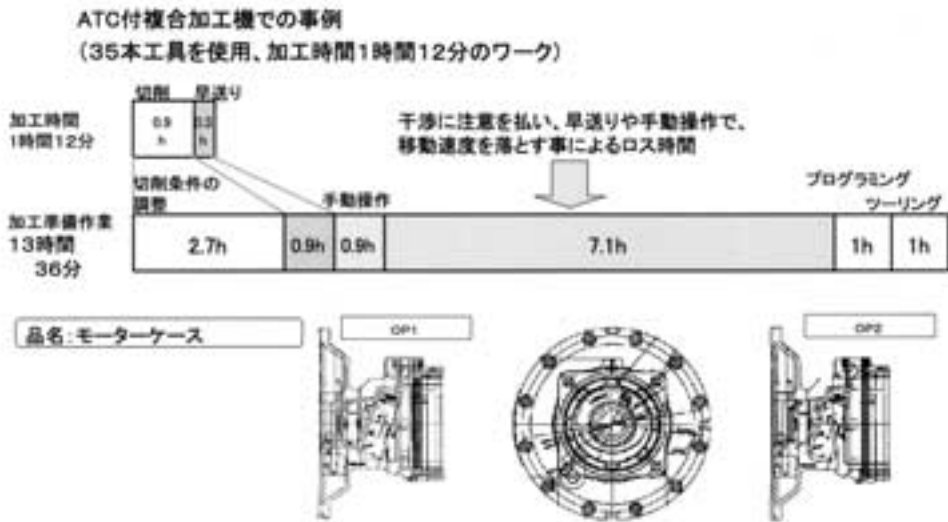
2. インテリジェントNC装置「OSP-P200」が実現する衝突防止機能(アンチクラッシュシステム)

アンチクラッシュシステムは、下記の技術開発による新しいオープンアーキテクチャーで構築された極めて先進的なNC装置のインテリジェント化によって実現された。

- a) 先進のソフトウェアプラットフォームとなるWindowsを支配下におき、かつ、同ソフトウェアとリアルタイムの機械制御ソフトウェアとを協調動作させるリアルタイムOSを開発した。
- b) リアルタイムOSの制御下で、知能化のキーテクノロジーである先進の3Dグラフィックシミュレーションと機械制御とを融合させたリアルタイム3Dシミュレーションを開発した。

こうして開発されたインテリジェントNC装置「OSP-P200」により、加工プログラムによる自動運転や、加工準備作業で用いられる手動操作においても、機械の実動作に先行して、NC装置自身が自動的に工具やワーク、治具、機械構造物の干渉チェックを行い、衝突前に機械を安全に自動停止させるアンチクラッシュシステムが実現された。

資料2 効率化の観点から加工準備作業でのロスの分析



資料2は、ATC(自動工具交換装置)を備えた複合加工機を使い、35種類の工具を用いて1時間12分で加工を行なう事例で、その準備作業時間13時間36分の内訳を示した図である。

ここで、複合加工機を例に加工プログラムによる切削動作の確認作業や手動操作による作業をみると、刃物台の干渉に細心の注意が払えるように、機械オペレータは速度を落として動作させる。

さらには、一時停止により機械動作を止めて干渉位置関係を確認する。

このように、「速度を落とす」「一時停止させる」というロス時間の積み重ねが、加工準備時間を増加させる。アンチクラッシュシステムは、このロス時間の削除を可能とした。

3. アンチクラッシュシステムの実現技術

アンチクラッシュシステムを実現するキーテクノロジーとプラットフォームについて紹介する。

3-1. Windowsを支配下におく自社開発リアルタイムOS

「OSP-P200」では、シングルコンピュータ上で機械制御ソフトウェアとWindowsとを協調動作させるリアルタイムOSを自社で開発し搭載した。このリアルタイムOSは、機械の状態を監視し、さらに、加工プログラムや手動操作に応じて機械制御信号を生成し、駆動部に出力する機械制御ソフトウェアを、時間保証された一定の微小周期で動作させ、かつ、その制御下でWindowsを動作させることを可能にした(資料3参照)。さらに、本リアルタイムOSでは、機械制御ソフトウェアとWindowsをプラットフォームとするアプリケーションソフトウェアとがリアルタイムにデータ交換できる仕組みを実現している。

資料3 自社開発リアルタイムOSを搭載したOSP-P200の構造



3 - 2 . グラフィックシミュレーション技術と機械制御技術とのリアルタイム融合

アンチクラッシュシステムは、資料4に示すように、Windowsをプラットフォームにして動作するグラフィックシミュレーション側に、工具やワーク、治具、機械構造物といった可動ユニットと非可動ユニットの三次元モデルから成る仮想機械を持ち、このグラフィックシミュレーションソフトウェアと前述した機械制御ソフトウェアとが、リアルタイムOSを介して、リアルタイムにデータ交換しながら、シミュレーションを行なうというリアルタイム3Dシミュレーション技術により実現している。

具体的には、加工プログラムや手動操作に応じて機械制御信号を生成する際に、先行してグラフィックシミュレーション側に移動信号を出力して仮想機械を動作させ、干渉発生の有無を予測検知して機械制御側に出力する。干渉が発生すると予測された場合は、干渉発生の手前で可動ユニットを減速停止させ、干渉が発生しない場合は、そのまま移動させる制御を行なう。この結果、実際に機械が衝突する前に安全に自動停止させることができる。

資料4 衝突防止機能の実現構造



4 . まとめ

「OSP-P200」に搭載されたアンチクラッシュシステムは、加工の高付加価値化と相反して増加する加工準備時間を抑制することが出来るため、今後、複合加工機に限らず、多品種少量生産を担う多くの工作機械に搭載されると思われる。



リレー随筆



Part 2



“今の私・過去の私”

㈱牧野フライス製作所 富山営業所
藤原 邦 祥

入社し、配属されてから半年後のことだったと思います。先輩と引き継ぎの挨拶で、あるお客様を訪問した際、お話の最中にその社長様からこう言われました。「たわけ！だから、大学出のボンクラはバカだって言うんや！！やる前から、出来ないと思って何が出来る！！」と。入社1年目の何も分らずビビりまくっている私は、頭の中が真っ白になったのと同時に、これまで言われたことのない罵声に腹が立ちました。いくら、お客様とは言え、初対面の相手に、『「ボンクラ！、バカ！」はないだろう。どこまで社長は、私のことを知っているのだ！』とまで思いました。（後で考えればこのように言われたのは、確か社長様からの問いに「出来ません。」と答えたからだったと思います。）その時の私は、とても腹が立って、お客様であることを忘れてケンカ腰になりかけたのを覚えています。

また、こんな社長様もいらっしゃいました。こちらのお客様も、配属後、半年経過した頃から担当することになりました。前述の社長様と異なり温和な社長様でいろいろ丁寧に優しく接して下さいました。そして、ある時、弊社の代理店様から連絡があり、そのお客様が弊社製品の購入を検討していただけたことととても嬉しかったのを覚えています。しかし、値段交渉に入ったところでこれまでの私の社長様への印象ががらっと変わりました。「藤原君、私はあなたから機械を購入すると言っているのに、あなたが値段を決めなくて、誰が決めるの？上司は関係ないでしょ。上司が値段を決めるなら、最初から藤原君なんていなくていいんだよ！」と言われました。（弊社の代理店様を前にしてでした。）もうその時の私は顔が真っ青になり、その後、何を話したのか記憶がないほどでした。

2日経って社長様から電話があり、「買うと言っているのだから早く来んか！他のメーカーをどうぞ！！」と言われ、諦めていた私には本当に寝耳に水でした。再度訪問した時厳しい値引要求がありましたが、お蔭様で何とか注文はいただきました。

その後、転勤をするまで、約2年半、両社とも担当させていただきましたが転勤の挨拶にお伺いした際、一方の社長様からはこう言われました。「藤原君、俺はどんな若い奴にも、必ず叱るんや。若い奴は、伸びる可能性をたくさん秘めている。それなのに、今の上に立つ奴らは、叱ることをしない。だから、代りに俺が叱って、教育しているんだ。感謝しろ。な！」と。「最後まで、社長らしいお言葉、ありがとうございました。」と、思わずつぶやいてしまいました。（その後の社長のお言葉について、敢えて言いません。想像にお任せ致します。）そして、他方の社長様からは、こう言われました。「藤原君の良いところは、1つだけある。あんたは、分かるとるか？『粘り強い性格！』だぞ。転勤しても、粘り強く行けな！！」と。これまで、自分でどうしようもなくなると、すぐ人に頼っていた私に、「すぐ助け舟を呼ぼうとするどうしようもない奴！」と、口癖のように言っていた社長様からのお言葉に、大変感動したのを覚えています。

“部下を動かす人事戦略”

著者：金井壽宏 高橋俊介（PHP新書）



協同リース㈱
サプライヤー営業部長
岡庭守司

本書は、「キャリアアップの時代は終わった」「部下を動かす人材育成術」「会社を変える人事戦略」を各部とする三部構成により、高度成長期の「ピラミッド型」人事（終身雇用、年功序列）の終焉以降、目標管理制度、資格職能給制度、成果主義と時代ごとに企業が取り組んできた諸制度を現代社会の実情を元に「組織」「人事」「戦略」のトライアングルを念頭に検証し、問題点や陥りやすい感覚を認識の上、ラインマネジャー、経営層、人事担当者が、会社ビジョンに沿った形でいかに戦略を立て行動し、会社を強くしていくかを論じている。著者は今をこのように言う、「人事をどのように行い、組織のなかの人間の行動にどのような影響を人事が与えるかという問題が、ひいてはその組織体の戦略的な優位、競争力に繋がるところまで視野に入れることが望まれる時代になってきた。」

成果主義評価とは「再現性の高い仕事の質的な部分を評価すべきである。」数字というものは一見客観的な評価基準に見えるがたまたまの大口注文や、押し込み販売など「数字の実の仕事の片面的な部分を表しているにすぎない。」と結果主義偏重には留意を促し、今後のミドルを「世代継承性（エネルギーを若い世代と協働し教育することに向け、なおかつ、そこで作りだしたものが会社の繁栄を通じて社会に貢献する。）即ち実現可能な世代とし、「社員のキャリア・コンピテンシーを高めるよう会社が上手に支援すれば、組織は活発化し、リーダーも育ちやすくなりそうだ」との考えについては共感した。

経営資源たる人の問題はビジネス社会において最大関心事の一つである。私は、ラインマネジャーでありミドル層としてまたリースマンとして本書を読み、部下に案件対応方法（与信設定の際の定数分析のみならず定性分析に対する着眼点や、商品、業界特性）を伝え、部下の自律を促し、リース会社の役割であるお客様、サプライヤー様との信頼構築を指導していきたいと強く感じた。

お二人に出会う以前の私は、何でもオドオドし、言われるがままの自信のない自分でした。しかし、お二人と出会い、教わったことは、数えきれませんが、こうです。『お客様からの問い合わせには、出来ないと思っても検討してみると答えなさい！』『出来ないと思っても諦めずに、粘り強くいきなさい！』ということです。これが、今の私です。

今の私をお二人が見れば、またお叱りを受けますと思いますが、今度は『愛のムチ』として、有り難くお話を聞ける自分がいると思います。

第202回 定例理事会

日時：1月11日(水)11:00 ~ 12:00

場所：東京 / 八重洲富士屋ホテル

5階「あんず・なつめ」の間

出席者：石川会長、副会長3名、専務理事、
理事18名、監事2名、事務局1名。

会長挨拶

新年あけましておめでとうございます。大変景気のよい正月を迎え皆さんの明るい顔を見ることができ、嬉しい年明けとなった。

今年は皆さんの協力を得てユーザー・メーカーの皆様のお役にたてる日工販を築き上げたいと思っている。今年もご協力のほどよろしく願います。

議題：

[経済産業省広報]：

経済産業省経済産業政策局産業人材参事官室 田中信雄氏より「平成18年度産業人材施策」及び平成17年4月1日施行「人材投資促進税制」について説明を受けた。

・産業人材を巡る現状：

団塊世代の定年到達を控え若手人材の確保・育成の必要性があるが、企業は90年代には厳しい環境下教育訓練費を削減してきた。然し人員削減、技術の短サイクル化等により従来型OJTによる人材育成継続が困難な状況となり、今後はOFF-JTと組み合わせた組織的・体系的な人材育成が重要となっている。一方、大学生の大企業思考が上昇し、中小企業にとって若手人材確保は容易でなくなってきている。大学進学率は2002年49%と中国の14%をはるかに超えるが、学力は低下し、経済

ニーズへの対応度合いは中国にも劣り世界60カ国中58位にとどまっており、中国への投資先としての魅力につき、4社に1社が優秀な人材との回答があり、人材格差による空洞化のおそれもある。

・政府の取組状況：

産学連帯を通じた若手人材の育成

(1)モノ作り分野での専門職大学院等の設置促進

(2)高専等を核としたモノ作り人材の育成
若者と地域産業の橋渡し支援

(1)中小企業の魅力の若者への発信

(2)若者の能力向上・就業促進を図るための
サービスセンター(ジョブカフェ)設置

(3)地域自立・民間活用型キャリア教育プロジェクトの推進

(4)若者・フリーターの就職・仕事に役立つ知識・スキルを提供する「草の根eラーニング」の推進

・平成17年4月1日施行「人材投資促進税制」について

人材投資促進税制の特徴として

業種・規模を問わず全ての企業が対象

法人税・所得税から税額控除(増加額の25%)

中小企業には手厚い特例措置(総額の最大20%)

研修委託費・教材購入費など幅広い費用を対象

最後に具体例をあげて本税制導入による大きなメリットを説明、人材育成に本税制を活用されたい旨述べられた。

[付議事項]

(1) スペイン国際工作機械展BIEMH'06視察団組成のこと

専務理事より、昨年末にBilbao Exhibition Centreより3月開催の同展への視察団派遣要請があり、1月12日(木)までに確認回答を求められているため、本日の議題にあげた旨説明があり、審議を行った。

審議の結果、急な話で時間的余裕も無く参加者も固まらず、今回は見送ることにした。

[報告事項]

(1) 流通動態調査平成17年11月結果

専務理事より報告。受注は相変わらず順調で前年同月比17%増。売上も10月に比し上昇し前年同月比30%強増。

11月の鉱工業生産指数は過去最高となり、生産動向は緩やかながら上昇傾向にあり、今しばらくは堅調が続くと見られる。UFJ総合研究所の2006年度経済見通しによると、いざなぎ景気(57ヵ月続いた)越えが視野に入り、2005年度の実質経済成長が2.6%に達したと見られ、2006年度に関しては、上期の強めの動きから、これを上回る可能性があるとの強気の分析を示している。

(2) 委員会報告

教育委員会：SE更新研修 専務理事報告。名古屋11/10、東京11/17。受講者60名。詳細日工販ニュース12月号参照。
委員会11/29 植田委員長報告。SE講座受講料改訂検討。詳細日工販ニュース1月号参照。
調査広報委員会：田尻委員長報告。11/15。11・12月合併号編集確認。EMO国際会議内容及び現地視察者の印象記掲載。会員名簿発行内容確認。会員会社工作機械年間売上額調

査結果報告実施了承。

東部地区委員会：尾瀬委員長報告。

委員会・講演会・懇親会11/22。箆匠せいわ木越社長による講演「ありがとうの広がる商い」。56名参加。今回は忘年懇親会とせず、単に懇親会として会費も引き下げ多くの方の参加を願ったが結果的に効果が無く52名の参加にとどまった。本年は従来通り忘年懇親会として開催の予定。

懇親ゴルフ会11/29。龍ヶ崎カントリー倶楽部12名参加。

中部地区委員会：井内委員長報告。

中・西部合同工場見学会11/10 トヨタ会館及びトヨタ自動車元町工場。中部33名、西部15名参加。講演会・忘年懇親会12/2。元日工販会長瀧氏による講演「工作機械販売の歴史 古きをたずねて新しきを知る - 」97名参加。

西部地区委員会：

中・西部合同工場見学会11/10。懇親ゴルフ会11/15。グリーンエースC.C. 20名参加。講演会・忘年懇親会12/1。大西日工会相談役による講演「日本の自動車産業の動向と工作機械」120名参加。

(3) その他

本年地区忘年懇親会日程：

東部：12月8日(金)

中部：12月6日(木)

西部：12月5日(水)

明年日工販賀詞交歓会日程：

1月10日(水)

次回定例理事会

3月8日(水) 14:30~16:30

大阪/産業創造館

第25回 インターネット委員会

ネット会議

発信日：平成17年12月22日

集計日：平成17年12月27日

参加者：後藤委員長、委員6名、事務局2名

議 題：

1. 日工販からのお知らせ「展示会」「新製品」ページ廃止のこと

結論：メーカー賛助会員に掲載を依頼したが、長期間にわたって書き込みが行われていないため閉鎖することにした。

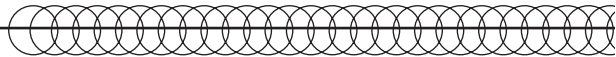
2. 「事務局お知らせ」の「年間統計」ページ追加の件

結論：統計資料はできる限り残しデータベースとして活用できるように「年間統計」ページを追加する。

事務局

1. 2. につきましては、製作会社と事務局が打ち合わせを行い進めます。

最終的には、メーカー賛助会員宛 閉鎖の連絡を行います。



日工販SE合格者 第129回発表

今回は1月の合格者6名です。

認定No.	会社名	合格者名
06-15-1725	(株)兼松K G K	矢可部洋光
06-15-1726	日本機械リース販売(株)	松岡 敬之
06-15-1727	メルダシステムエンジニアリング(株)	北之口芳文
06-15-1728	メルダシステムエンジニアリング(株)	丹羽 辰夫
06-15-1729	メルダシステムエンジニアリング(株)	平松 雅章
06-15-1730	メルダシステムエンジニアリング(株)	伊藤 良和

『更新研修』合格者 第81回発表

今回は1月の合格者11名です。

認定No.	会社名	合格者名
06-10R-1304	(株)ト-メンテクノソリューションズ	大野 学
06-10R-1060	三菱商事テクノス(株)	佐藤 和雄
06-10R-1292	三菱商事テクノス(株)	中村 文彦
06-10R-1307	三菱商事テクノス(株)	足立 憲昭
06-10R-1294	三栄商事(株)	豊島 久史
06-10R-1211	東銀リース(株)	林口吉代伸
06-10R-1332	日本機械リース販売(株)	山川 伸平
06-10R-1412	三井リース事業(株)	松澤 孝
06-10R-1208	UFJセントラルリース(株)	佐野 真一
06-10R-1209	UFJセントラルリース(株)	増山 恒夫
06-10R-1340	UFJセントラルリース(株)	大津 正裕

成功話・苦勞話・失敗談等



(株)エムエムケー
中部営業部
シニアセールスマネージャー
森本直樹

今から約20年程前になりますが、私が工作機械業界に入った時のことを思い起こせば、まず工作機械って何？マザーマシンって何？というところから始まり当時の私の目から見た工作機械というものは、あんなに硬い鉄をいとも簡単に削ったり、孔を明けたりと驚くばかりだったことを思い出します。

私が生まれ育った土地の地場産業は陶器産業で茶碗やどんぶりを人の手でまさに職人技で粘土から作り上げていくという様子を見ていることもあって、物づくりという言葉から連想されるのは職人さんの手だという観念が今でも強くイメージに残っています。

こうした私のバックグラウンドもあってか、最初に工作機械を目にした時には大きな驚きはありましたが、工作機械を好きになることがなかなか出来ませんでした。

驚きを持ったものに対して興味が湧くのが普通だと思いますが、なぜか私はそうではなかったのです。

そしてここから私の悲劇の始まりで、好きでもない物を販売出来るものでもなく、加えて対象ワークの図面を見るだけで蕁麻疹が出そうなそんな感じでした。

こうした中、自動車関連のあるお客様で生産技術を担当をしている方と会話する機会があり出身地が私と近場ということもあって話はずみしました。そんな時自分の心中をポロっとこぼしてしまったのです。

すると私に対して「工作機械の上辺だけを見ているから何も進歩しないんだよ、もっと本質を見てなぜ工作機械が必要でその役割は同じタイプの機械でも色々ある。もっともっといろんな工場に行ってそこで働く人達を含め、よく見れば何か感じられるものが必ずあるから」とご自身の経験談を含め仕事そっちのけで聞かせていただき気持ちが軽くなったことを憶えています。

よくよく考えてみれば日常的なことを言っていたただけのことですが、これまで私自身が当たり前のことを実践していなかったようにも思え、それからはお客様へ出向く度に積極的に工場を見させて頂くことを心がけました。

そうこうするうち私も工場現場の方々と技術的な会話も出来るようになり、ある時お客様から「あんたも鍛冶屋になってきたね」と言われた時には何とも言えない喜びを感じ、大きな自信へとつながったのです。

今や工作機械業界でも「ナノ」という単位もめずらしくないものに聞こえ、今後将来的に工作機械がどんな形に進化し発展してゆくのかを見守り、私も負けないう日々精進に努め販売を職務とする中でスーパー営業マンを目指すモチベーションで頑張っていきたいと思っています。

また、考えてみればこれまでのことを振り返るというのも最近ではなかったのですが、今回こうした機会に自身の事を振り返ってみて大事なことを思い出したような気がします。

最後にこの業界で仕事ができることに本当に感謝しております。

統計資料

工作機械・FA流通動態調査 1

統計1

単位百万円

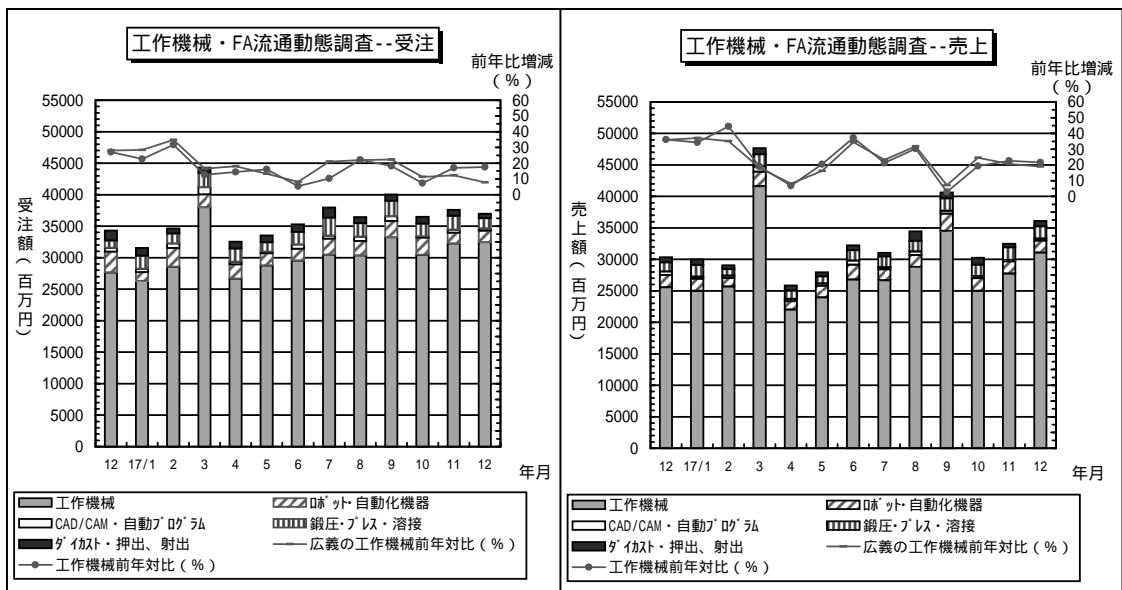
34社合計		受 注				売 上					
調査月次		17/12	前月比	前年比	17/1-17/12	前年比	17/12	前月比	前年比	17/1-17/12	前年比
広義の 工作機械	工作機械	32,463	0.6%	17.5%	367,075	15.7%	31,067	12.0%	21.6%	338,778	21.8%
	ロボット・自動化機器	1,794	6.5%	-45.6%	25,961	19.2%	1,902	-1.4%	-2.9%	23,299	21.8%
	CAD/CAM・自動プログラム	366	-23.9%	-42.5%	6,770	9.3%	329	39.4%	-40.8%	5,247	-0.6%
	鍛圧・プレス・溶接	1,619	-26.4%	42.9%	24,690	71.0%	1,943	-3.4%	32.5%	20,063	30.3%
	ダイカスト・押出・射出	744	-23.9%	-53.2%	12,891	-1.4%	869	50.3%	5.7%	10,339	20.4%
小計		36,985	-1.7%	7.9%	437,387	17.4%	36,109	11.1%	19.0%	397,726	21.8%
工作機械以外の扱い商品		9,807	-19.4%	-21.0%	155,017	15.0%	12,246	4.5%	23.0%	141,486	13.0%
合計		49,813	0.1%	6.7%	595,605	16.8%	48,356	9.4%	20.0%	540,230	19.3%
従業員数		1,207	1.5%	-0.3%							

統計2

単位百万円

32社合計		受 注				売 上					
調査月次		17/12	前月比	前年比	17/1-17/12	前年比	17/12	前月比	前年比	17/1-17/12	前年比
内訳	直販	24,759	0.4%	12.6%	306,034	23.7%	23,581	1.3%	22.7%	268,798	17.4%
	(内リース)	2,224	11.0%	15.5%	21,703	3.0%	2,296	-18.5%	4.2%	24,608	19.6%
	卸	10,212	6.4%	8.6%	114,032	9.0%	8,717	1.2%	-12.8%	106,134	9.5%
	輸入	1,214	81.2%	113.4%	4,508	-8.1%	209	31.4%	-44.1%	3,337	39.9%
	輸出	3,963	4.7%	-16.4%	52,606	13.8%	5,085	62.3%	86.8%	48,585	43.2%
(内トランスプラント)		0	-100.0%	-100.0%	1,207	10.0%	268	1240.0%	-	1,723	369.5%
従業員数		939	2.0%	-2.4%							

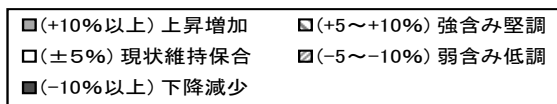
注：本調査は会員72社中統計1に関しては35社、統計2に関しては33社の回答を得て集計したものである。
折れ線グラフは工作機械及び広義の工作機械の前年比である。
参考までに今月のデータ提供会社総数は43社である。



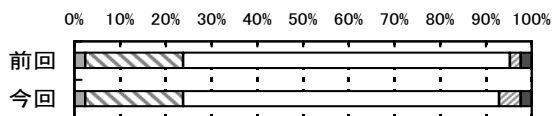
工作機械・F A 流通動態調査2

今回平成18年1月調査/前回平成17年10月調査対比

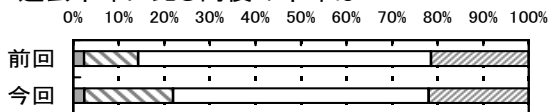
1. 工作機械全体見通し



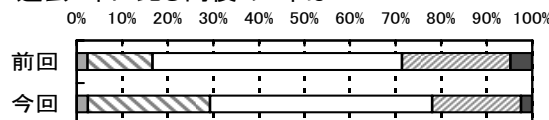
現状に比し直近(1~3カ月)は



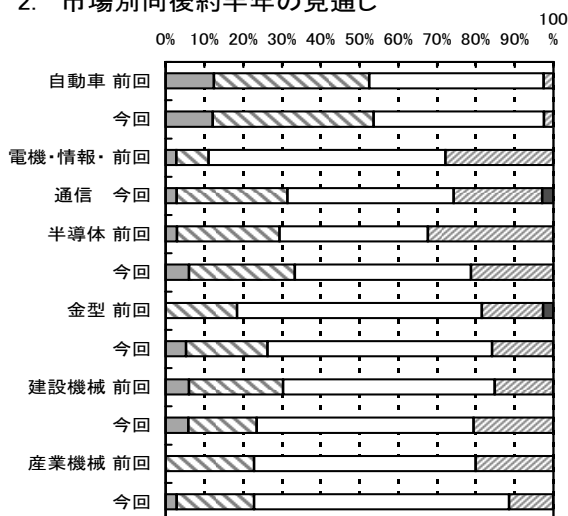
過去半年に比し向後の半年は



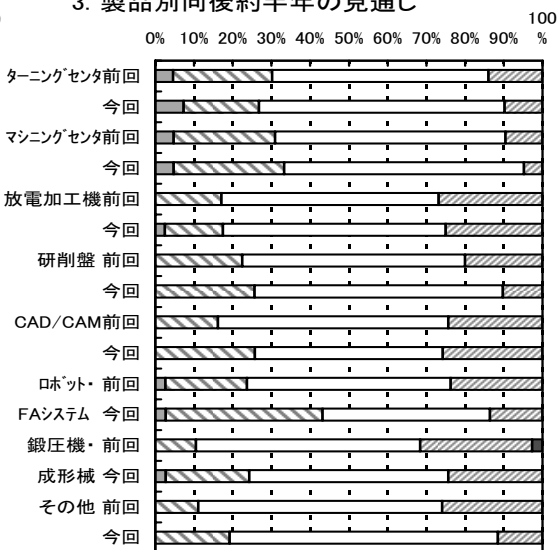
過去1年に比し向後の1年は



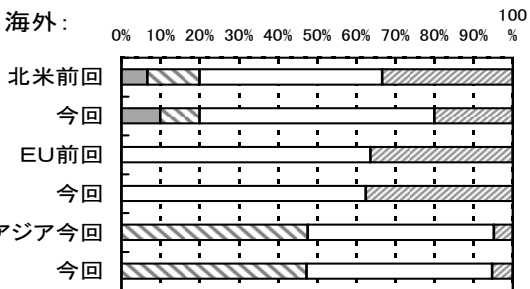
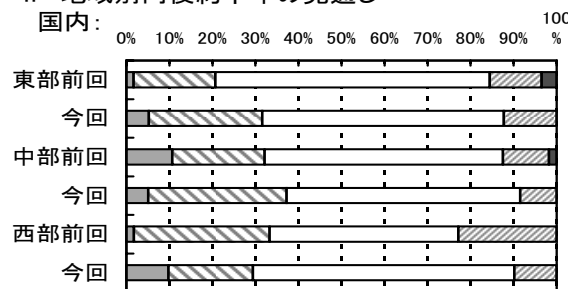
2. 市場別向後約半年の見通し



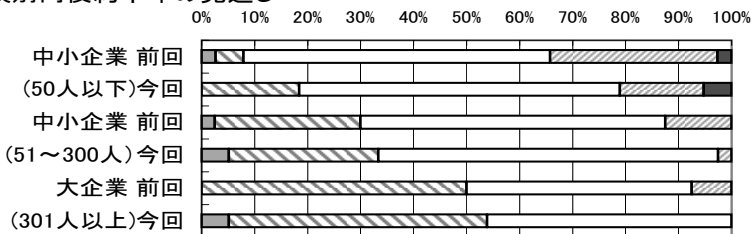
3. 製品別向後約半年の見通し



4. 地域別向後約半年の見通し



5. ユーザー規模別向後約半年の見通し



注: 調査データは日工販ホームページをごらんください。

工作機械業種別受注額(2005年12月)

1月20日発表

(単位：百万円、%)

需要業種	期間	2004年 累計	前年比	2005年 7~9月 累計	2005年 10~12月 累計	前期比	前年 同期比	2005年 1~12月累計	前年 同期比	12月分	前月比	前年 同月比
機械製造業	1. 鉄鋼・非鉄金属	8,613	155.0	1,989	3,711	186.6	164.4	11,619	134.9	1,524	134.0	185.4
	2. 金属製製品	22,067	145.1	4,997	4,979	99.6	93.6	22,641	102.6	1,333	86.7	67.1
	3. 一般機械 (内金型)	264,502	164.8	75,006	78,451	104.6	114.6	302,287	114.3	25,954	95.2	115.4
	4. 電気機械	65,645	161.2	18,203	17,900	98.3	108.9	73,807	112.4	5,741	85.1	98.8
	5. 自動車 (内自動車部品)	50,902	167.0	11,530	12,302	106.7	104.0	44,296	87.0	3,720	95.1	83.8
	6. 造船・輸送用機械	225,632	141.9	63,070	59,266	94.0	83.0	258,959	114.8	23,301	127.1	107.3
	7. 精密機械	101,945	132.4	29,327	23,402	79.8	74.6	110,547	108.4	6,919	81.1	70.2
	3~7. 小計	17,328	143.5	6,432	6,990	108.7	149.7	23,942	138.2	2,626	120.1	101.2
	8. その他製造業	32,990	136.5	7,522	9,198	122.3	121.7	32,913	99.8	3,558	121.6	108.2
	9. 官公需・学校	591,354	153.1	163,560	166,207	101.6	101.4	662,397	112.0	59,159	108.3	108.5
	10. その他需要部門	37,643	153.6	9,571	8,581	89.7	93.6	33,333	88.6	3,014	91.9	106.1
	11. 商社・代理店	1,842	98.3	266	694	260.9	122.8	1,588	86.2	339	205.5	95.2
	1~11. 内需合計	2,971	180.7	1,765	2,081	117.9	337.3	6,081	204.7	440	78.4	211.5
	12. 外需	8,349	127.2	1,873	2,468	131.8	127.6	9,050	108.4	666	70.7	91.2
1~12. 受注累計 (内NC機)	672,839	152.4	184,021	188,721	102.6	102.7	746,709	111.0	66,475	106.8	108.2	
販売額 (内NC機)	563,353	137.6	153,669	164,036	106.7	106.5	616,494	109.4	62,143	117.1	112.4	
受注残高 (内NC機)	1,236,192	145.2	337,690	352,757	104.5	104.4	1,363,203	110.3	128,618	111.5	110.2	
	1,176,257	145.7	323,813	336,687	104.0	103.9	1,304,058	110.9	123,256	112.2	110.6	
	997,876	129.7	336,287	311,152	92.5	116.0	1,246,501	124.9	115,661	107.1	113.5	
	948,061	129.6	317,798	296,521	93.3	115.2	1,189,880	125.5	110,414	106.5	113.2	
	555,840	159.3	611,539	644,180	105.3	115.9	644,180	115.9	644,180	100.7	115.9	
	515,982	163.4	577,610	610,194	105.6	118.3	610,194	118.3	610,194	100.8	118.3	

出所(社)日本工作機械工業会

行事予定

調査広報委員会	2月21日(火)	機械工具会館
教育委員会	2月27日(月)	機械工具会館
政策委員会	3月8日(水)	大阪産業創造館
定例理事会	3月8日(水)	大阪産業創造館

展示会

SIMTOS2006	4月12日(火)~17日(月)	韓国・ソウル
2006自動車部品生産システム展	6月14日(水)~17日(土)	東京ビッグサイト
IMTS2006	9月6日(水)~13日(水)	アメリカ・シカゴ
JIMTOPF2006、第23回日本国際工作機械見本市	11月1日(水)~8日(水)	東京ビッグサイト

編集後記

年の始めの祝い酒も覚めやらぬ1月16日、ライブドアに東京地検特捜部による証券取引法違反容疑による家宅捜索が入り、1週間後には堀江社長等4名が逮捕され、同社の錬金術的成長の影の部分がかんたくなってきました。ものづくりとは異質の世界での騒動ですが、監査法人や証券取引等監視委員会の機能が十分に果たされていないことへの不信感は拭い去れません。上昇傾向にあった日経平均株価も冷水を浴びたように一時下落しましたが、その後、落ち着きを取り戻してきました。

国会での証人喚問が続けられた耐震強度偽装事件や上記のライブドア摘発事件もそうですが、然るべきチェック機能としての役割を担う専門家が求められる技能・技術を発揮できていないところに問題があるように見受けられます。プロがプロとしての仕事をしっかり行うことがたいへん重要ではないでしょうか。

日工会が発表した12月の受注は単月で過去最高の1,286億円で昨年同月比10.2%増でした。2005年累計では1990年の1兆4,121億円で次ぐ史上2番目の1兆3,632億円、前年比10.3%増となりました。内需累計は前年比11.0%増の7,467億円で、外需累計は6,165億円と昨年の5,634億円を9.4%上回る史上最高額でした。地域・国別受注では韓国45.5%、タイ21.6%、インド26.1%の前年比増が目を見ますが、中国は1.2%減少しました。この結果アジア全体では10.5%増となりました。英国向けは27.9%増加しましたが、ドイツ、イタリア向けの減少があり、欧州全体では0.9%増とほぼ横ばいでした。アメリカは一昨年41.8%増に引き続き18.5%増と2年連続して増加しました。主要地域割合はアジア39.8%、北米33.7%、欧州24.1%です。

日工販の賀詞交歓会もそうでしたが、本年の関連団体の賀詞会も好況を反映してか、何れも昨年を上回る出席者で賑わい、久しぶりに味わう本格的回復基調がしばらくは続くのではと見る方が多いようで、2006年の見通しも明るいものでした。

「日工販ニュース」 Vol.18 - No.2

平成18年2月15日発行

発行	日本工作機械販売協会 〒108-0014 東京都港区芝 5-14-15 機械工具会館3階 電話 03-3454-7951 FAX 03-3452-7879
発行責任者	専務理事 荘司 博章
編集	日工販調査広報委員会 委員長 田尻 哲男

日本工作機械販売協会 会員会社一覧 (50音順)

平成18年2月1日現在

正会員(全72社)

[東部地区(36社)]

(株) 旭 商 工 社
 伊藤忠メカトロニクス(株)
 今井機械工業(株)
 (株) エムエムケー
 大石機械(株)
 (株) カナデン
 (株) 兼松K G K
 (株) 京 二
 (株) 共 和 工 機
 群馬工機(株)
 (株) 国 興
 (株) 三 機 商 会
 三洋マシン(株)
 サンワ産業(株)
 シマモト技研(株)
 住友商事マシネックス(株)
 (株) セイロジャパン
 誠和エンジニアリング(株)
 太平興業(株)
 (株) 高橋機械
 帝通エンジニアリング(株)
 (株) テ ヅ カ
 東京金子機械(株)
 (株) トーメンテクノソリューションズ
 常盤産業(株)
 トッキ・インダストリーズ(株)
 独協機械(株)
 (株) ト ミ タ
 (株) N a I T O
 日鋼商事(株)
 藤田総合機器(株)
 松茂工販(株)
 三菱商事テクノス(株)
 (株) ヤマモリ
 ユアサ商事(株)
 米沢工機(株)

[中部地区(20社)]

石原商事(株)
 (株) 井 高
 岡谷機販(株)
 カト一機械(株)
 釜屋(株)
 岐阜機械商事(株)
 甲信商事(株)
 三栄商事(株)
 三機商事(株)
 サンコー商事(株)
 三立興産(株)
 下野機械(株)

(株) 大 成
 (株) 大 誠
 (株) 東 陽
 (株) 日 本 精 機 商 会
 浜松貿易(株)
 (株) 不 二
 山下機械(株)
 ワシノ商事(株)

[西部地区(16社)]

赤澤機械(株)
 伊吹産業(株)
 植田機械(株)
 (株) お じ ま
 関西機械(株)
 京華産業(株)
 五誠機械産業(株)
 桜井機械(株)
 (株) ジ ー ネ ッ ト
 大幸産業(株)
 (株) 立花エレテック
 西川産業(株)
 日本産商(株)
 マルカキカイ(株)
 宮脇機械プラント(株)
 (株) 山 善

賛助会員(全73社)

[製造業(53社)]

(株) エ グ ロ
 S M C (株)
 エヌティーツール(株)
 エンシュウ(株)
 オーエスジー(株)
 オークマ(株)
 大隈豊和機械(株)
 大阪機工(株)
 (株) 岡本工作機械製作所
 (株) 神崎高級工機製作所
 (株) 北川鉄工所
 キタムラ機械(株)
 キヤムタス(株)
 京セラ(株)
 (株) グラフィックプロダクツ
 黒田精工(株)
 (株) ジェイテクト
 (株) シギヤ精機製作所
 新日本工機(株)
 住友電工ハードメタル(株)
 (株) ソディック
 大昭和精機(株)
 高松機械工業(株)

(株) ツ ガ ミ
 津田駒工業(株)
 (株) テクノワシノ
 (株) 東京精密
 東芝機械マシナリー(株)
 東洋精機工業(株)
 (株) ナガセインテグレックス
 中村留精密工業(株)
 (株) 日研工作所
 (株) 日平トヤマ
 野村精機(株)
 浜井産業(株)
 日立ツール(株)
 ファナック(株)
 富士機械製造(株)
 ブラザー販売(株)
 豊和工業(株)
 牧野フライス精機(株)
 (株) 牧野フライス製作所
 (株) 松浦機械製作所
 三井精機工業(株)
 (株) ミ ツ ト ヨ
 三菱重工業(株)
 三菱電機(株)
 三菱マテリアルツールズ(株)
 (株) ミ ヤ ノ
 メルダシステムエンジニアリング(株)
 (株) 森精機製作所
 安田工業(株)
 ヤマザキマザック(株)

[リース業(20社)]

エヌ・ティ・ティ・リース(株)
 協同リース(株)
 共友リース(株)
 近畿総合リース(株)
 興銀リース(株)
 首都圏リース(株)
 昭和リース(株)
 GEキャピタルリーシング(株)
 住商リース(株)
 ダイアモンドリース(株)
 東京リース(株)
 東銀リース(株)
 東芝ファイナンス(株)
 日本機械リース販売(株)
 日立キャピタル(株)
 (株) 芙蓉リース販売
 三井住友銀リース(株)
 三井リース事業(株)
 三菱電機クレジット(株)
 UFJセントラルリース(株)